

第40回 県政に関する世論調査の結果について

平成22年11月29日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2249

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、本年8月に郵送法で実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康と福祉、千葉県の農産物、市民活動団体の活動、地方分権、千葉県の施策・政策、広報・広聴活動について県民の意識調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)
- (5) 調査時期 平成22年8月4日～8月24日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,647(54.9%)

3 調査の項目

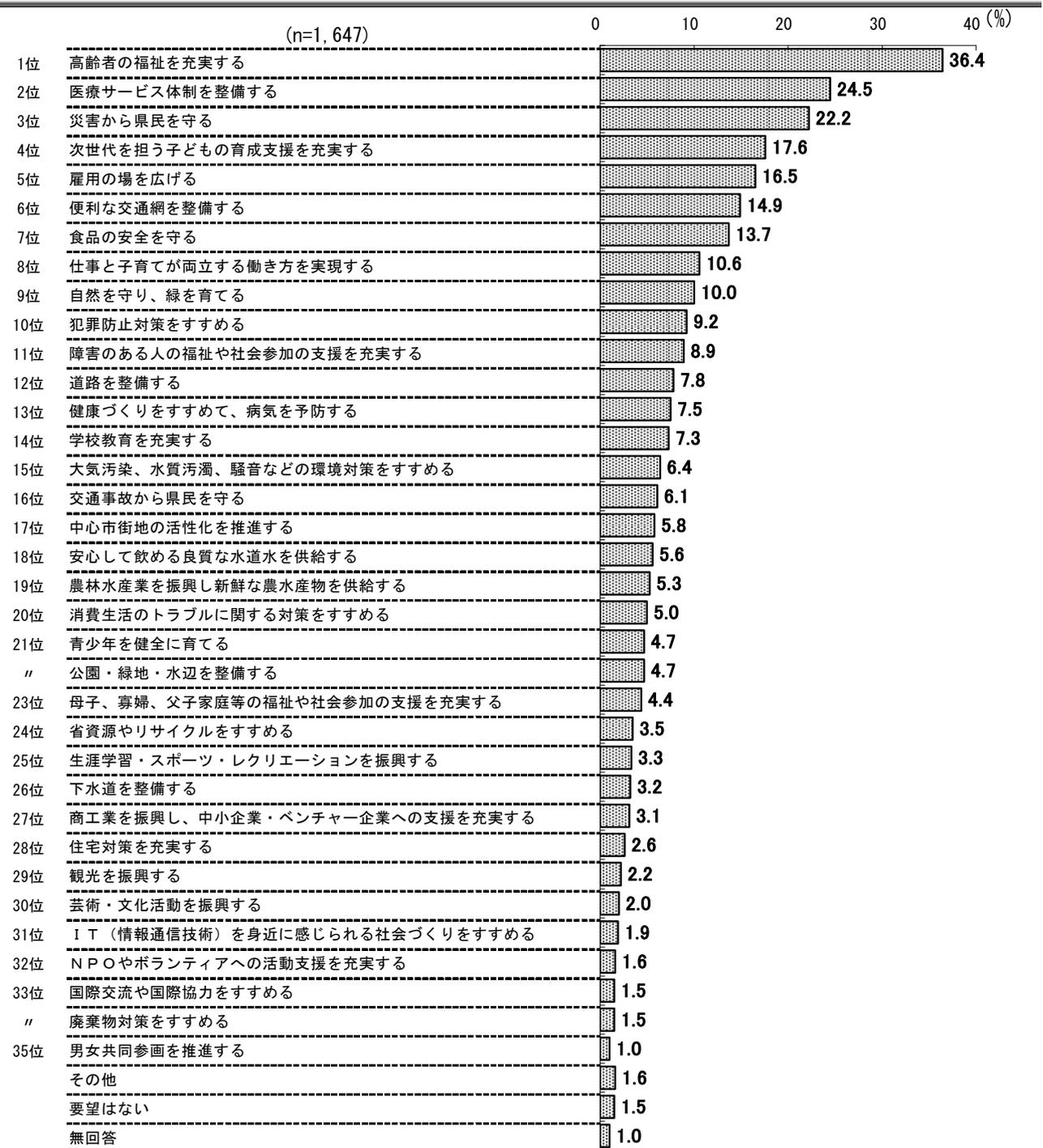
- (1) 県民意識調査
 - ①環境と生活について
 - ②健康と福祉について
 - ③千葉県の農産物について
 - ④市民活動団体の活動について
 - ⑤地方分権について
 - ⑥千葉県の施策・政策について
 - ⑦広報・広聴活動について
- (2) 県政への要望

4. 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

(複数回答：3つまで)

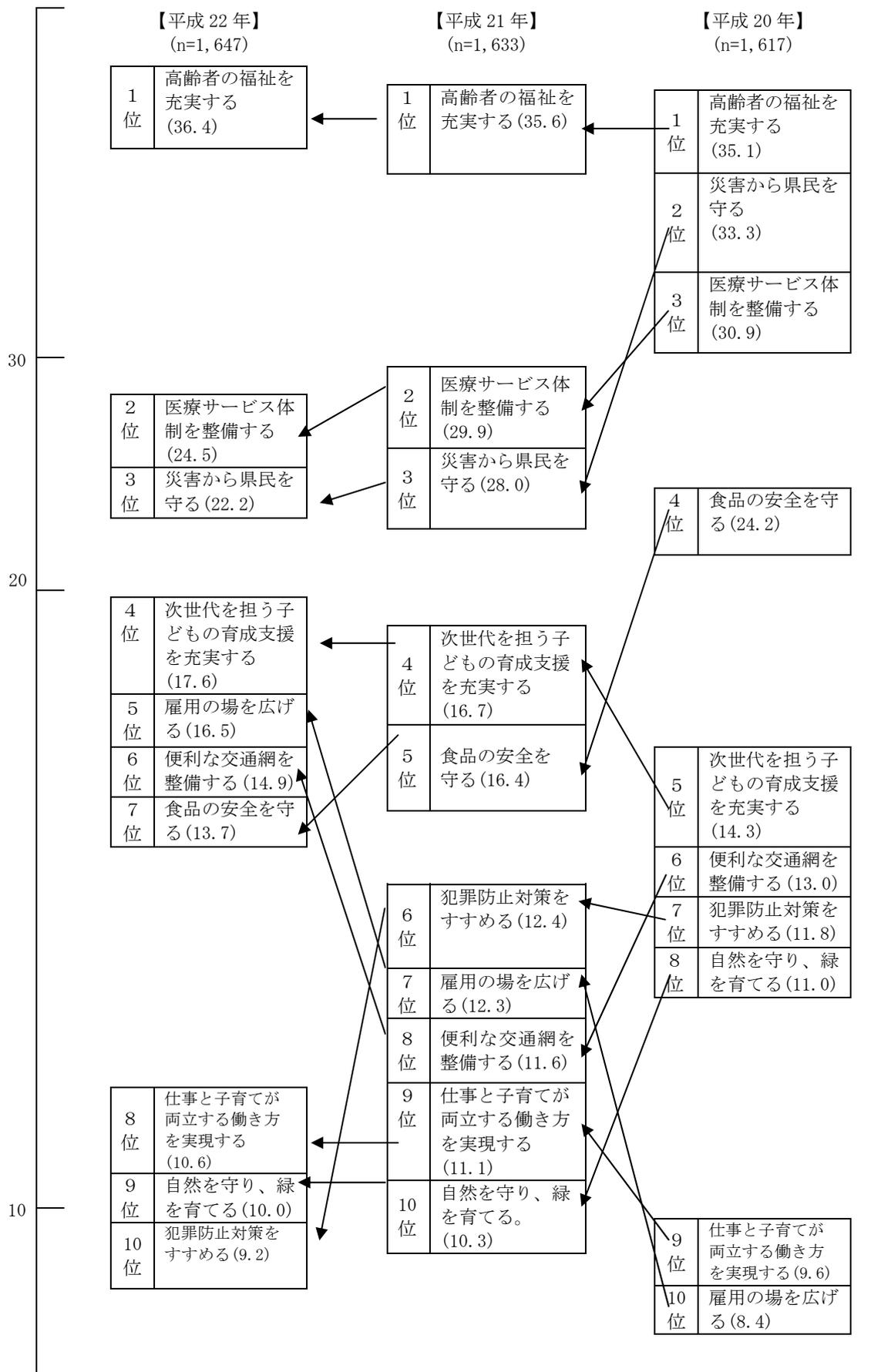


今回調査の主な特徴

1. 「高齢者の福祉を充実する」(36.4%)が1位、次いで「医療サービス体制を整備する」(24.5%)が2位、「災害から県民を守る」(22.2%)が3位となっており、昨年に引き続き県民からの要望が特に高い。
2. 「雇用の場を広げる」は、昨年(12.3%)と比べ4.2%ポイント上昇し7位から5位に、「便利な交通網を整備する」は、昨年(11.6%)と比べ3.3%ポイント上昇し8位から6位となった。
3. 10位以下で昨年と比べて目立って上昇している項目は「障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する」(16位から11位)、「健康づくりをすすめて、病気を予防する」(18位から13位)、「中心市街地の活性化を推進する」(22位から17位)だった。

■ 県政への要望／上位 10 項目の推移

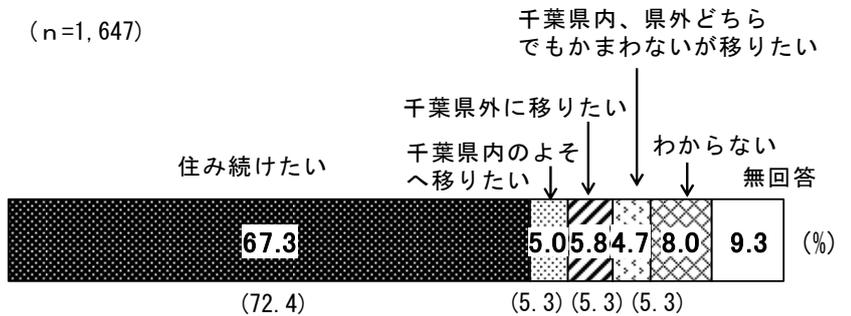
<図表 8-1> 県政への要望／上位 10 項目の推移



2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域に、今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(67.3%)が約7割、「千葉県内のよそへ移りたい」(5.0%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい』方が72.3%で7割を超える。一方、「千葉県外に移りたい」(5.8%)、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(4.7%)をあわせると1割となっている。

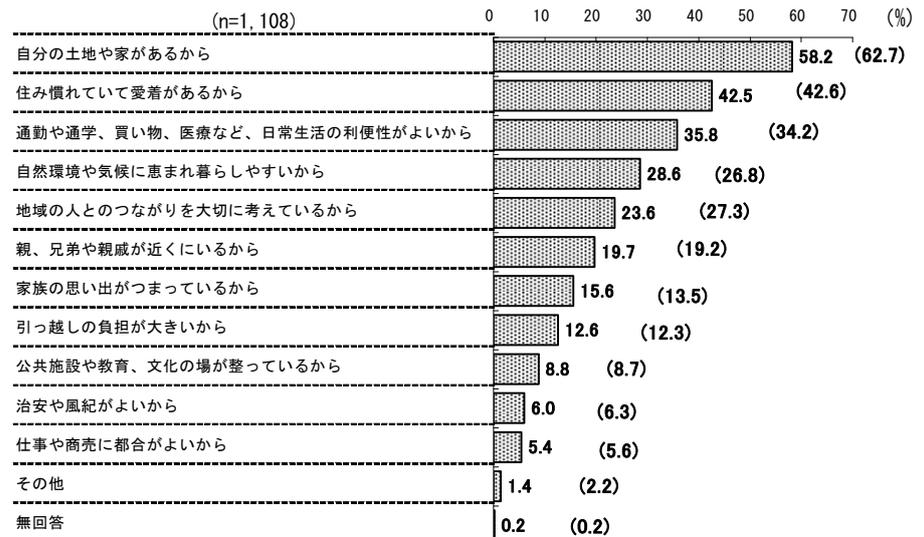


注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,108人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(58.2%)が約6割、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(42.5%)、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(35.8%)が続く。

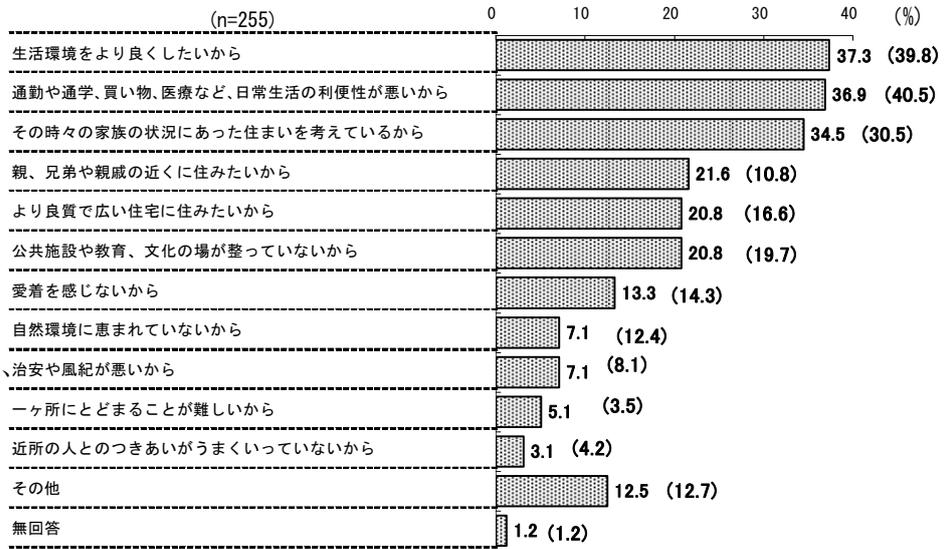


注) () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

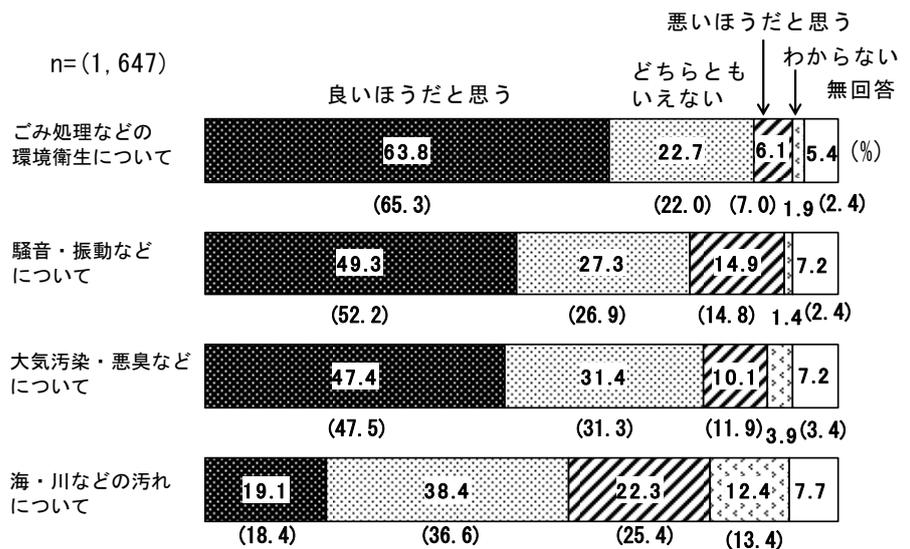
「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した255人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(37.3%)が約4割で最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(36.9%)、「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(34.5%)と続く。



注) () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(2) 生活環境について

生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは「ごみ処理などの環境衛生について」(63.8%)で6割台半ばとなっている。以下、「騒音・振動などについて」(49.3%)、「大気汚染・悪臭などについて」(47.4%)でいずれも約5割となっている。一方、「海・川などの汚れについて」は、「良いほうだと思う」(19.1%)が約2割となっている。

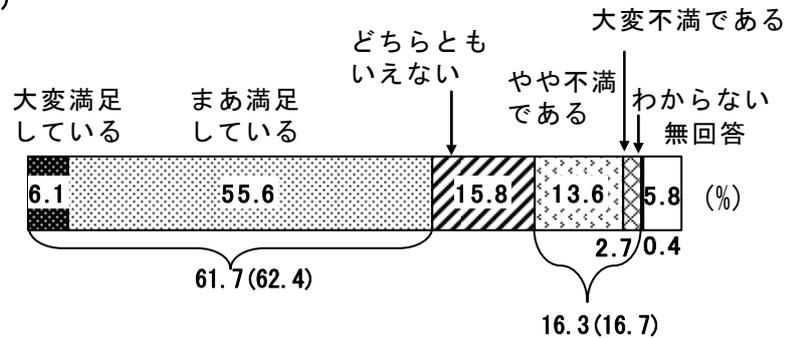


注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(6.1%)と「まあ満足している」(55.6%)を合わせた『満足している』(61.7%)は6割を超えている。一方、「やや不満である」(13.6%)と「大変不満である」(2.7%)を合わせた『不満である』(16.3%)は1割台半ばとなっている。

(n=1,647)

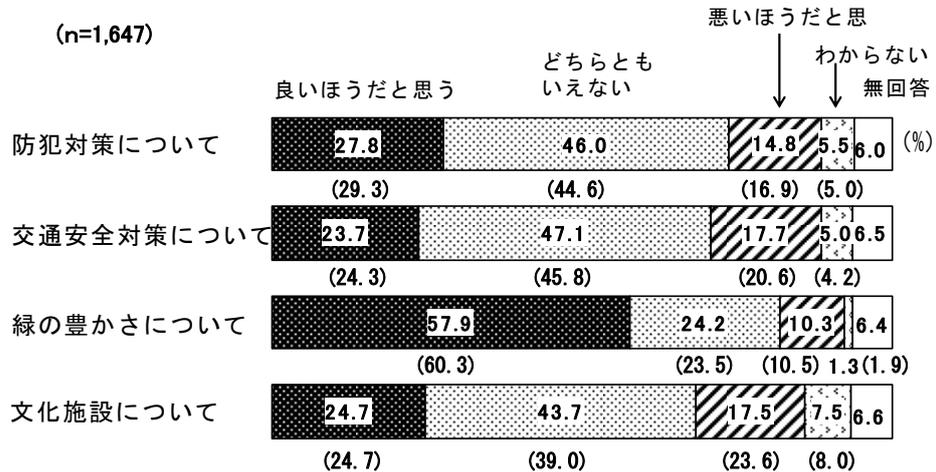


注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(4) 自然・周辺環境について

自然・周辺環境に関する4つの項目についてそれぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは〈緑の豊かさについて〉(57.9%)で約6割となっている。〈防犯対策について〉(27.8%)、〈交通安全対策について〉(23.7%)、〈文化施設について〉(24.7%)は、いずれも2割台半ばとなっている。

(n=1,647)

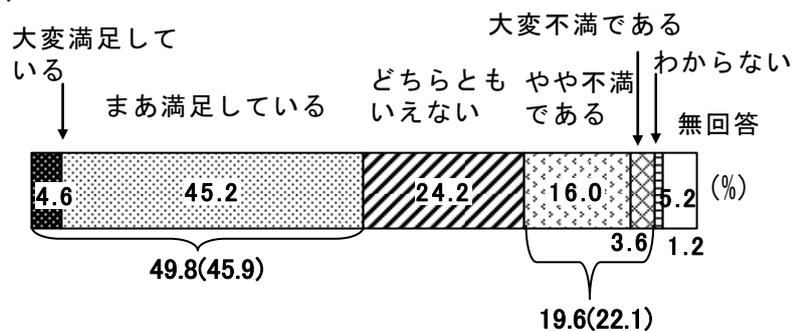


注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(5) 自然・周辺環境全般の満足度

自然・周辺環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.6%)と「まあ満足している」(45.2%)を合わせた『満足している』(49.8%)は約5割となっている。一方、「やや不満である」(16.0%)と「大変不満である」(3.6%)を合わせた『不満である』(19.6%)は約2割となっている。

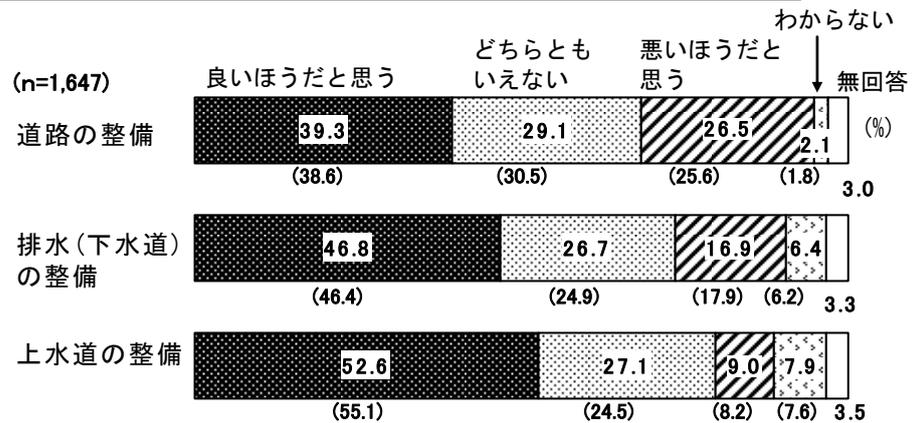
(n=1,647)



注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(6) 基盤整備について

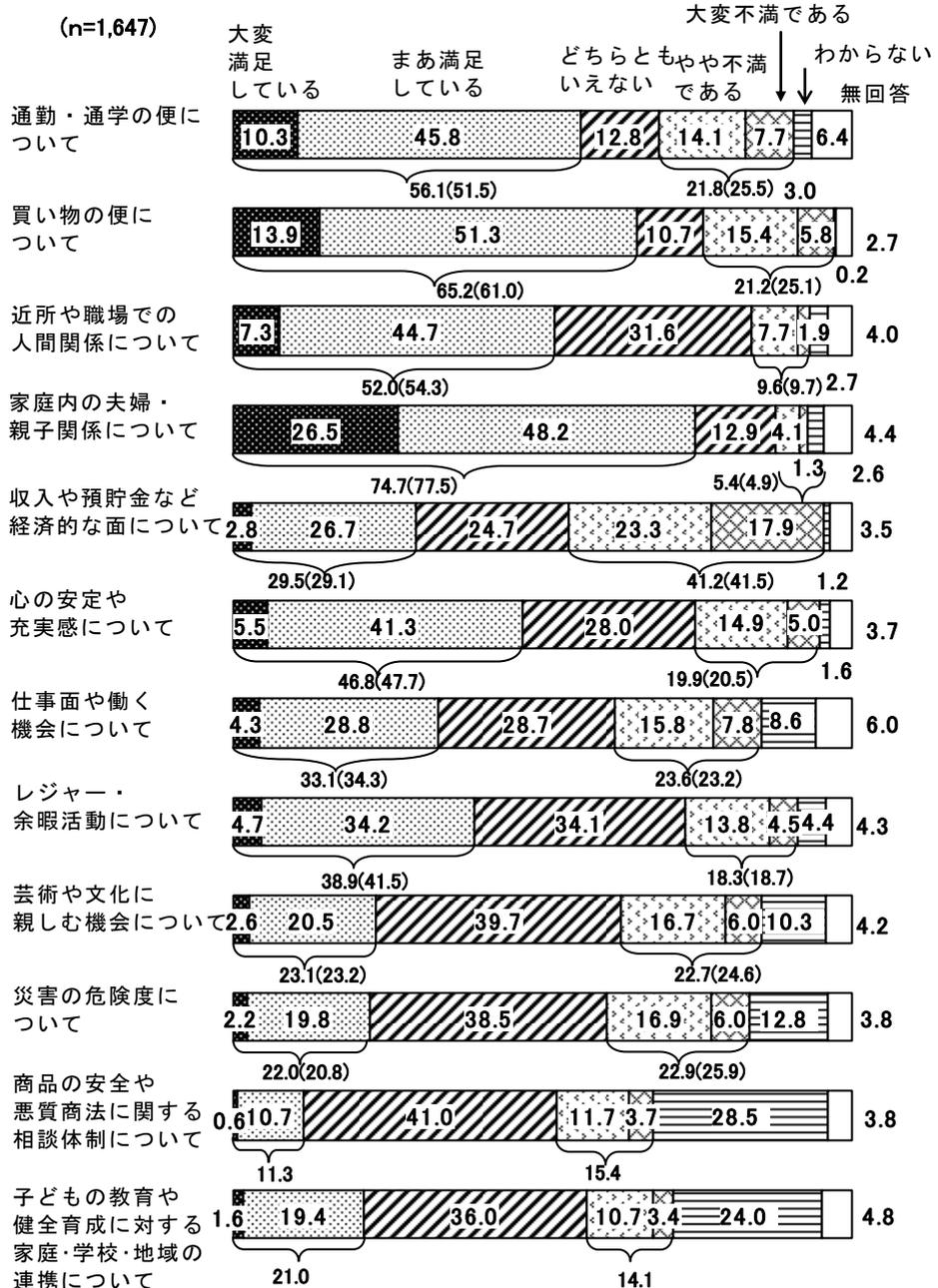
基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈上水道の整備〉(52.6%)で5割を超える。次いで、〈排水(下水道)の整備〉(46.8%)が4割台半ばとなっている。〈道路の整備〉は「良いほうだと思う」(39.3%)が約4割になっている。



注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(7) 現在の生活の満足度

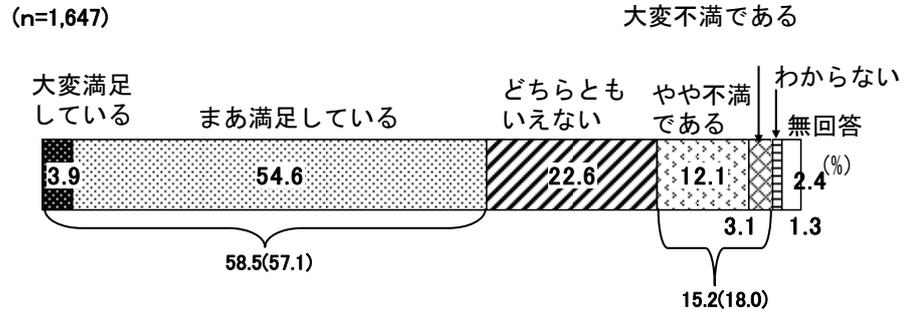
現在の生活に関する12個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、〈家庭内の夫婦・親子関係について〉(74.7%)で7割台半ばとなっている。以下、〈買い物の便について〉(65.2%)、〈通勤・通学の便について〉(56.1%)と続く。「やや不満である」と「大変不満である」を合わせて『不満である』とすると、12項目中9項目で『満足している』が『不満である』より高い中、〈収入や預貯金など経済的な面について〉、〈心の安定や充実感について〉、〈商品の安全や悪質商法に関する相談体制について〉、〈災害の危険度について〉の3項目は、『不満である』が『満足している』を上回っている。



注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(8) 住生活全般の満足度

現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（3.9%）と「まあ満足している」（54.6%）を合わせた『満足している』（58.5%）は約6割となっている。一方、「やや不満である」（12.1%）と「大変不満である」（3.1%）を合わせた『不満である』（15.2%）は1割台半ばとなっている。

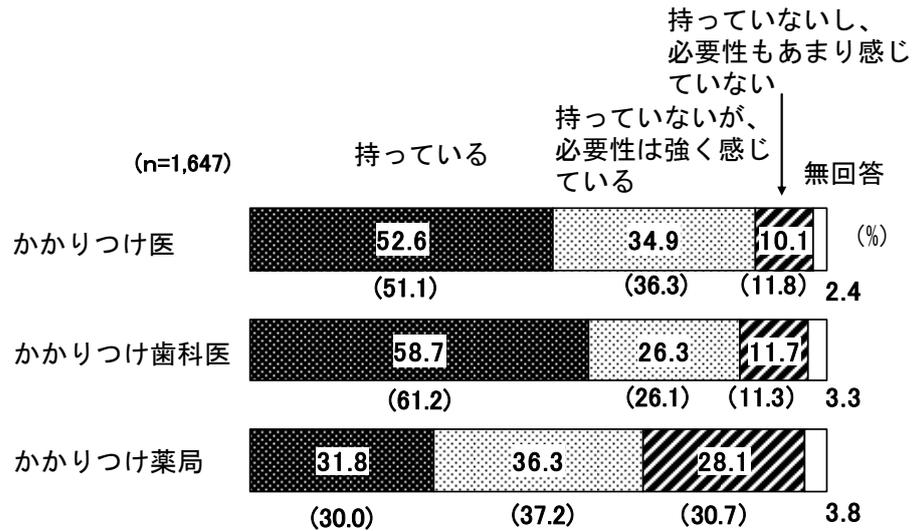


注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

3 健康と福祉について

(1) かかりつけ医の有無

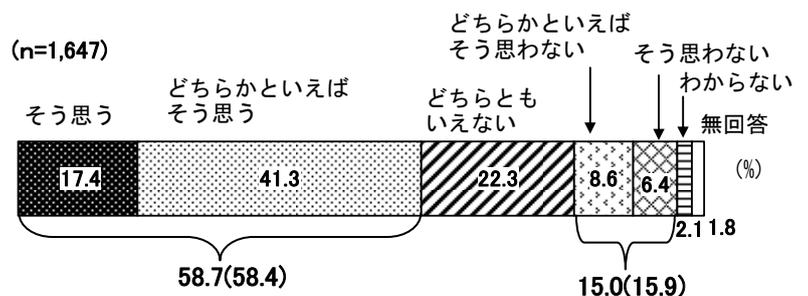
かかりつけの医師、歯科医、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は歯科医（58.7%）で約6割、医師（52.6%）で5割を超えるが、薬局（31.8%）では3割である。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は薬局（36.3%）と医師（34.9%）で3割台半ばとなっている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は薬局（28.1%）で約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(2) 地域での生活

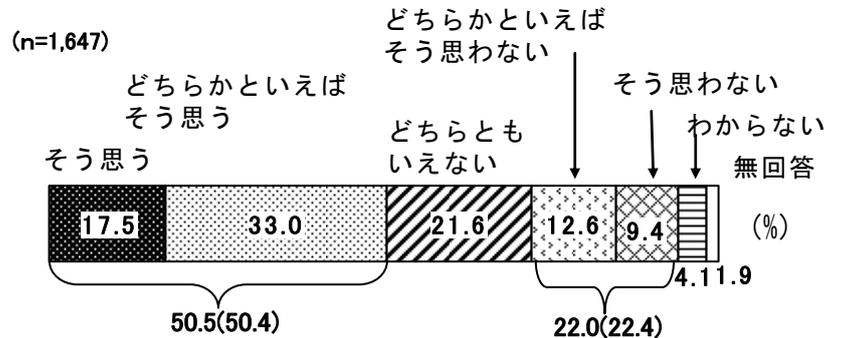
地域において、明るく楽しく生活していると思うか聞いたところ、「そう思う」（17.4%）と「どちらかといえばそう思う」（41.3%）を合わせた『そう思う』（58.7%）が約6割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（8.6%）と「そう思わない」（6.4%）を合わせた『そう思わない』（15.0%）は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成21年度の調査結果を示している。

(3) 健康づくりに取り組むことができる環境

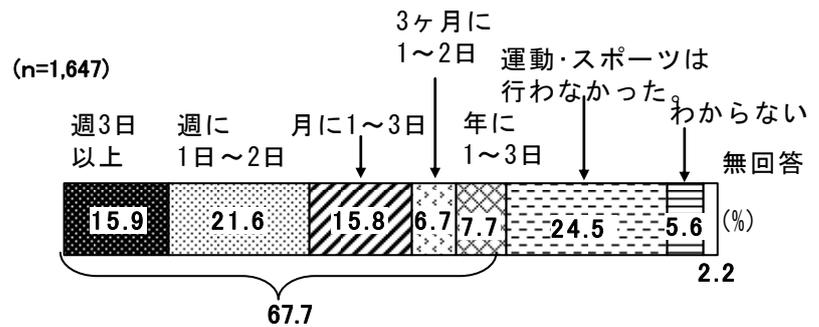
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(17.5%)と「どちらかといえばそう思う」(33.0%)を合わせた『そう思う』(50.5%)は5割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.6%)と「そう思わない」(9.4%)を合わせた『そう思わない』(22.0%)は2割を超える。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

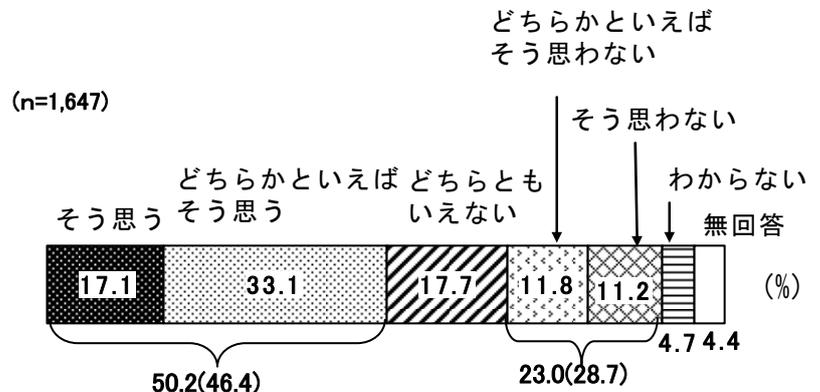
(4) 健康づくりのための運動

健康づくりなどのために運動やスポーツを1年間に何日くらい行ったか聞いたところ、何日かでも『運動した』(67.7%)は約7割となっており、「週に3日以上」(15.9%)、「週に1日～2日」(21.6%)、「月に1～3日」(15.8%)、「3ヶ月に1～2日」(6.7%)、「年に1～3日」(7.7%)だった。一方、「運動・スポーツは行わなかった」(24.5%)と2割台半ばとなっている。



(5) 安心して受診できる医療体制

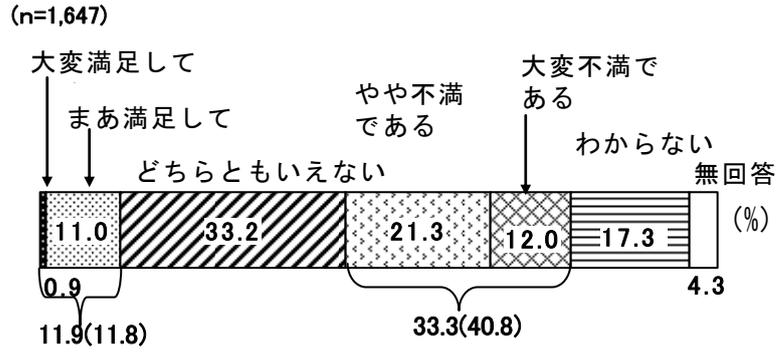
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(17.1%)と「どちらかといえばそう思う」(33.1%)を合わせた『そう思う』(50.2%)は5割である。一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.8%)と「そう思わない」(11.2%)を合わせた『そう思わない』(23.0%)は2割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(6) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度

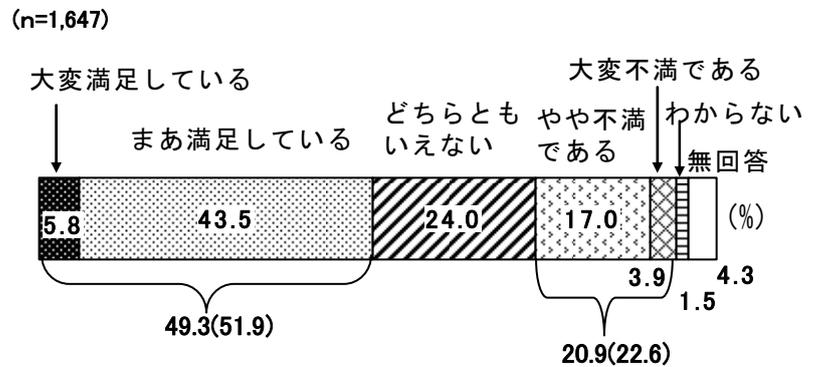
お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(0.9%)と「まあ満足している」(11.0%)を合わせた『満足している』(11.9%)が1割を超える。一方、「やや不満である」(21.3%)と「大変不満である」(12.0%)を合わせた『不満である』(33.3%)は3割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(7) 自分や家族の健康についての満足度

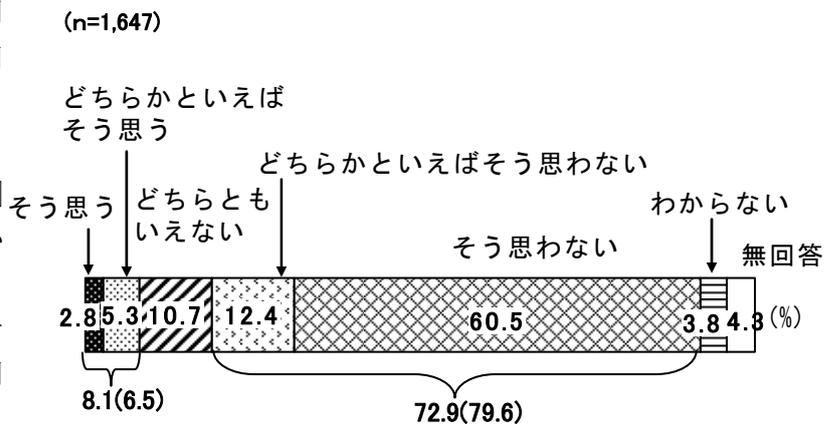
自分や家族の健康についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(5.8%)と「まあ満足している」(43.5%)を合わせた『満足している』(49.3%)は約5割。一方、「やや不満である」(17.0%)と「大変不満である」(3.9%)を合わせた『不満である』(20.9%)は2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(8) 理不尽な理由による差別等

自分が理不尽な理由によって差別等の辛い目に遭っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(2.8%)と「どちらかといえばそう思う」(5.3%)を合わせた『そう思う』(8.1%)は約1割。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.4%)と「そう思わない」(60.5%)を合わせた『そう思わない』(72.9%)は7割を超えている。

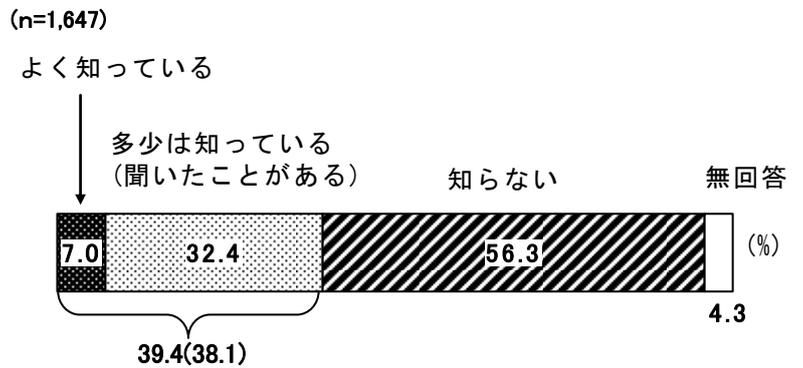


注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

4 千葉県の農産物について

(1) 「ちばエコ農産物」の認知度

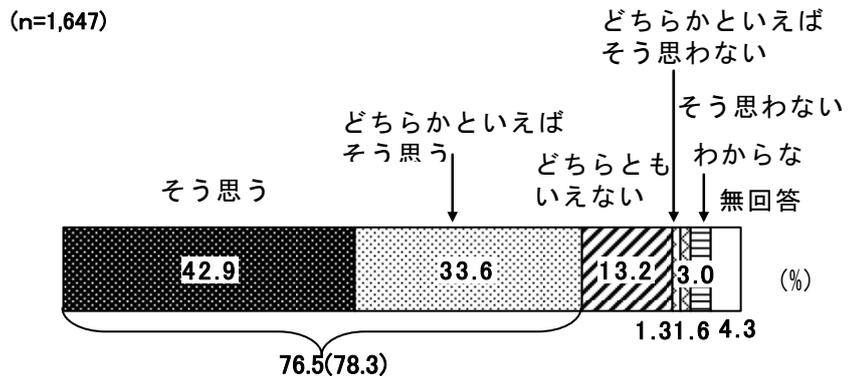
「ちばエコ農産物」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(7.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(32.4%)を合わせた『知っている』(39.4%)は約4割である。一方、「知らない」(56.3%)は5割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(2) 千葉産農産物の購入意向

千葉県産農産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(42.9%)と「どちらかといえばそう思う」(33.6%)を合わせた『そう思う』(76.5%)は7割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.3%)と「そう思わない」(1.6%)を合わせた『そう思わない』(2.9%)は1割未満となっている。

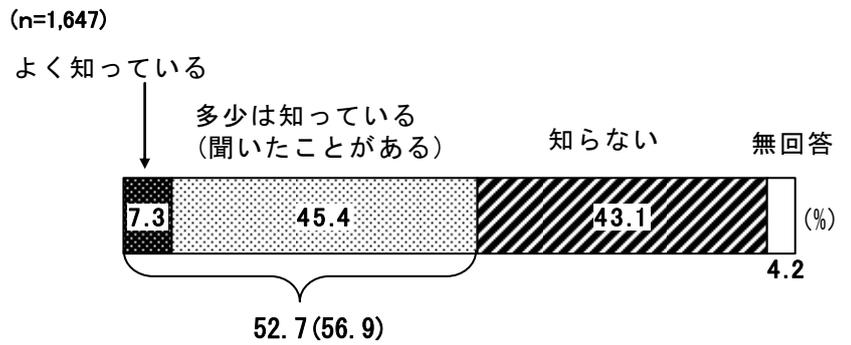


注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

5 市民活動団体の活動について

(1) 市民活動団体の活動の認知度

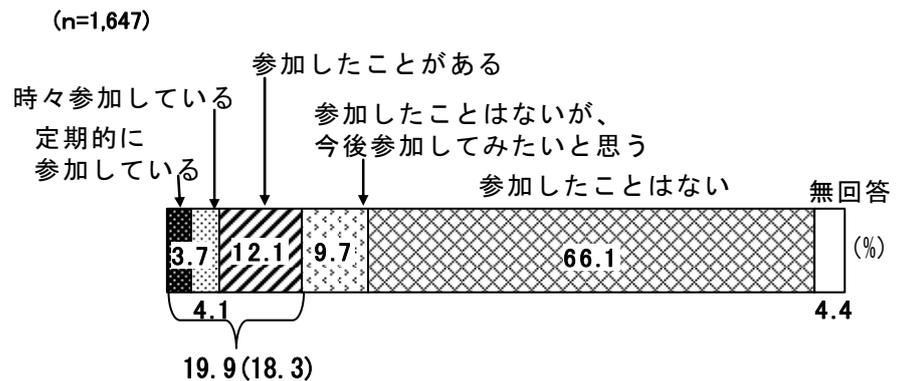
市民活動団体の活動の認知度を聞いたところ、「多少は知っている（聞いたことがある）」（45.4%）は4割台半ばで最も高く、「よく知っている」（7.3%）は約1割である。これらを合わせた『知っている』（52.7%）は5割を超える。一方、「知らない」（43.1%）は4割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(2) 市民活動団体の活動への参加経験

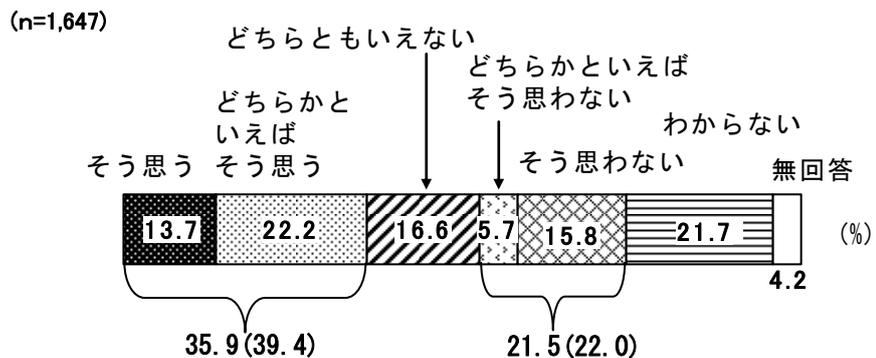
市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（3.7%）と「時々参加している」（4.1%）、「参加したことがある」（12.1%）を合わせた『参加している』（19.9%）は約2割である。一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（9.7%）は約1割、「参加したことはない」（66.1%）は6割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(3) 市民活動団体の活動の貢献度

市民活動団体の活動の貢献度を聞いたところ、「そう思う」（13.7%）と「どちらかといえばそう思う」（22.2%）を合わせた『そう思う』（35.9%）は3割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.7%）と「そう思わない」（15.8%）を合わせた『そう思わない』（21.5%）は2割を超える。

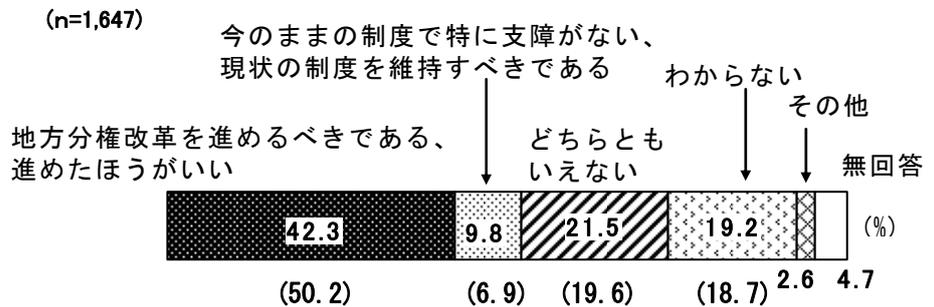


注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

6 地方分権について

(1) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

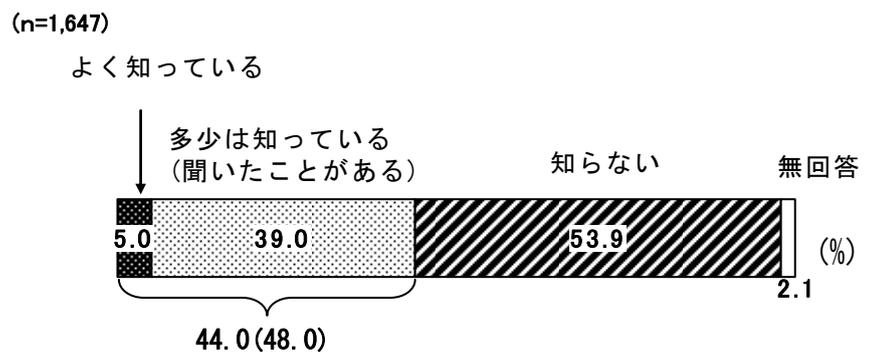
地方分権改革を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権改革を進めるべきである、進めたほうがいい」(42.3%)は4割を超え、「今のままの制度で支障がない、現状の制度を維持すべきである」(9.8%)は約1割である。また、「どちらともいえない」(21.5%)、「わからない」(19.2%)はいずれも約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(1-1) 「地方分権改革」認知度

地方分権改革の取り組みの認知度を聞いたところ、「よく知っている」(5.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(39.0%)を合わせた『知っている』(44.0%)は4割台半ばである。一方、「知らない」(53.9%)は5割台半ばである。

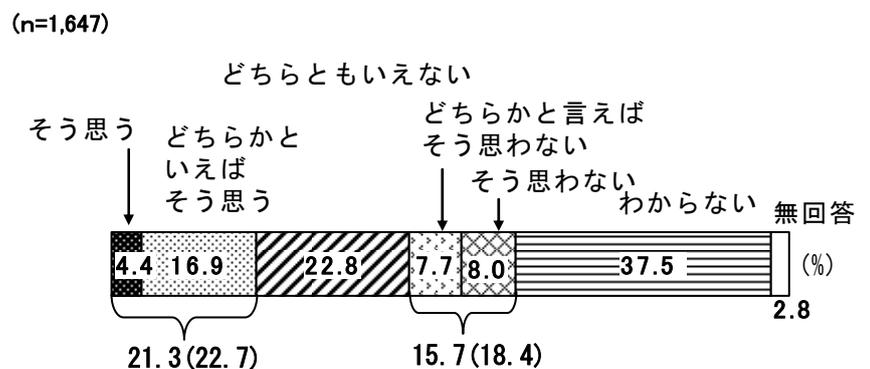


注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

7 千葉県の施策・政策について

(1) 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営

政策評価が県民の視点に立った県政運営に役立っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.4%)と「どちらかといえばそう思う」(16.9%)を合わせた『そう思う』(21.3%)は2割を超える。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.7%)と「そう思わない」(8.0%)を合わせた『そう思わない』(15.7%)は1割台半ばとなっている。また、「わからない」(37.5%)は約4割である。

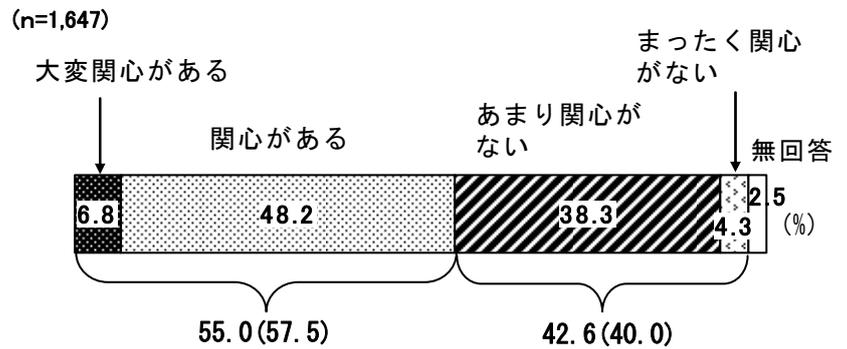


注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

8 広報・広聴活動について

(1) 県の政策や施策などについての関心度

県の政策や施策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.8%)、「関心がある」(48.2%)を合わせた『関心がある』(55.0%)は5割台半ばである。一方、「あまり関心がない」(38.3%)と「まったく関心がない」(4.3%)を合わせた『関心がない』(42.6%)は4割台となっている。

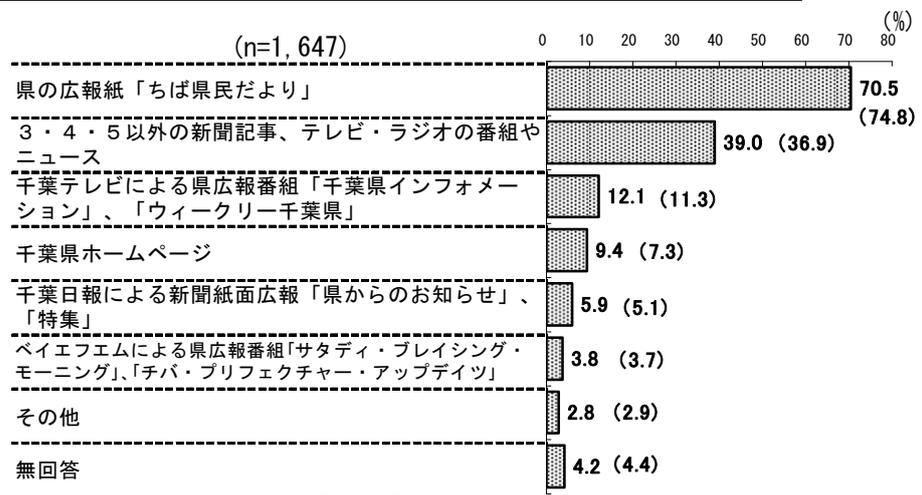


注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県の広報紙『ちば県民だより』」(70.5%)が7割と最も多く、以下、「3・4・5以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(39.0%)が約4割、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」(12.1%)が1割を超え続けている。

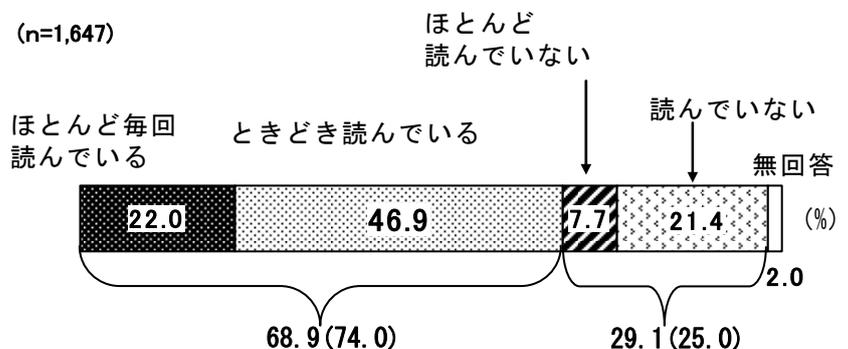


(※) 「3・4・5以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、3・4・5とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集』、『千葉テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」、「ウィークリー千葉県』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタディ・プレイング・モーニング」、「チバ・プリフェクチャー・アップデート」』を指す。

注) () 書きは、平成 21 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

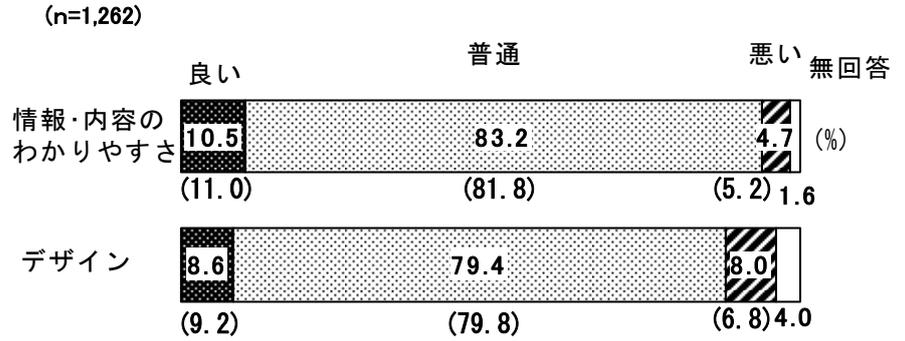
県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(22.0%)、「ときどき読んでいる」(46.9%)を合わせた『読んでいる』(68.9%)は約7割である。一方、「ほとんど読んでいない」(7.7%)と「読んでいない」(21.4%)を合わせた『読んでいない』(29.1%)は約3割である。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(3-1) 「ちば県民だより」の内容について

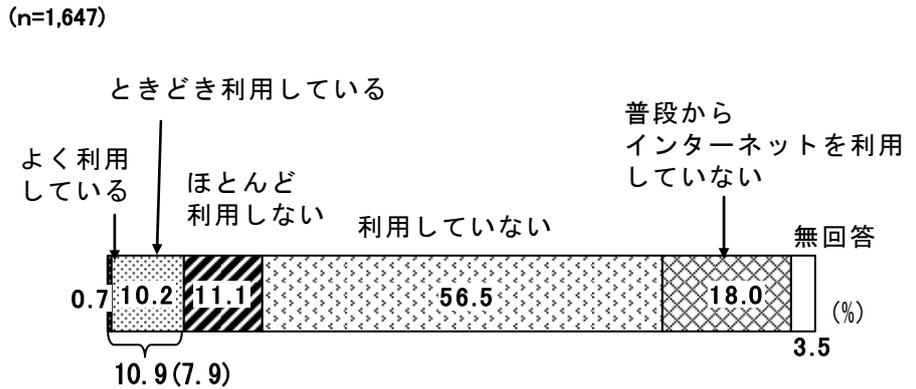
県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「ほとんど読まない」と回答した1,262人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、〈情報・内容のわかりやすさ〉において、「良い」(10.5%)は1割、「普通」(83.2%)は8割を超えている。〈デザイン〉において、「良い」(8.6%)は約1割で、「普通」(79.4%)は約8割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

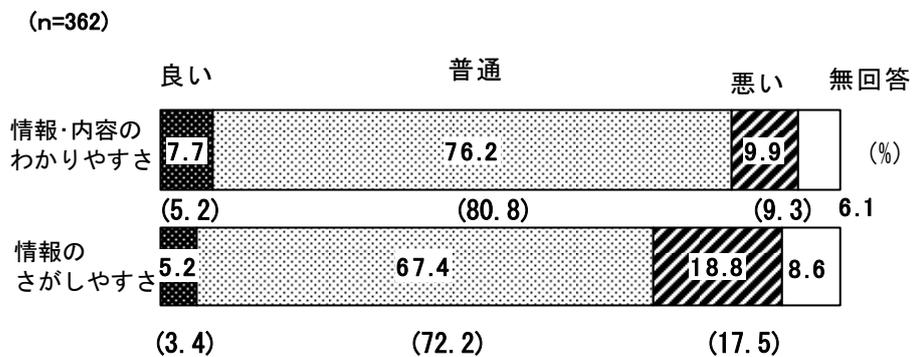
千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(0.7%)、「ときどき利用している」(10.2%)を合わせた『利用している』(10.9%)は1割台。一方、「ほとんど利用しない」(11.1%)、「利用していない」(56.5%)、「普段からインターネットを利用していない」(18.0%)を合わせた『利用していない』(85.6%)は、8割台半ばとなっている。約2割の人は、普段からインターネットを利用していない。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(4-1) 千葉県ホームページの利用しやすさ

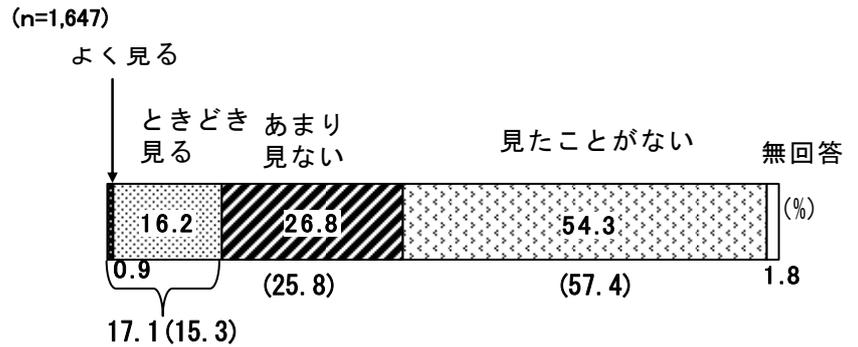
千葉県ホームページを「よく利用している」、「ときどき利用している」、「あまり利用しない」と回答した362人を対象に、千葉県ホームページの利用しやすさについて聞いたところ、〈情報・内容のわかりやすさ〉において、「良い」(7.7%)は約1割。一方「普通」(76.2%)は7割台半ばである。〈情報のさがしやすさ〉において、「良い」(5.2%)は1割に満たない。「普通」(67.4%)は約7割である。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報番組の視聴状況

県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(0.9%)と「ときどき見る」(16.2%)を合わせた『見る』(17.1%)は約2割である。一方、「あまり見ない」(26.8%)は2割台半ば、「見たことがない」(54.3%)は5割台半ばと最も多い。

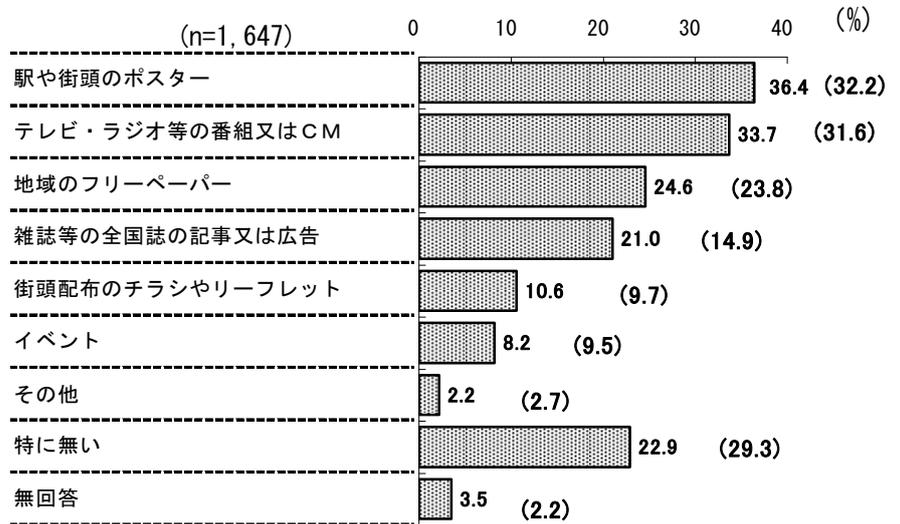


注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

(6) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

(複数回答: いくつでも)

県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況を聞いたところ、「駅や街頭のポスター」(36.4%)が3割台半ばで最も高くなっている。以下、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(33.7%)、「地域のフリーペーパー」(24.6%)、「雑誌等の全国誌の記事又は広告」(21.0%)、「街頭配布のチラシやリーフレット」(10.6%)、「イベント」(8.2%)、「その他」(2.2%)と続いている。

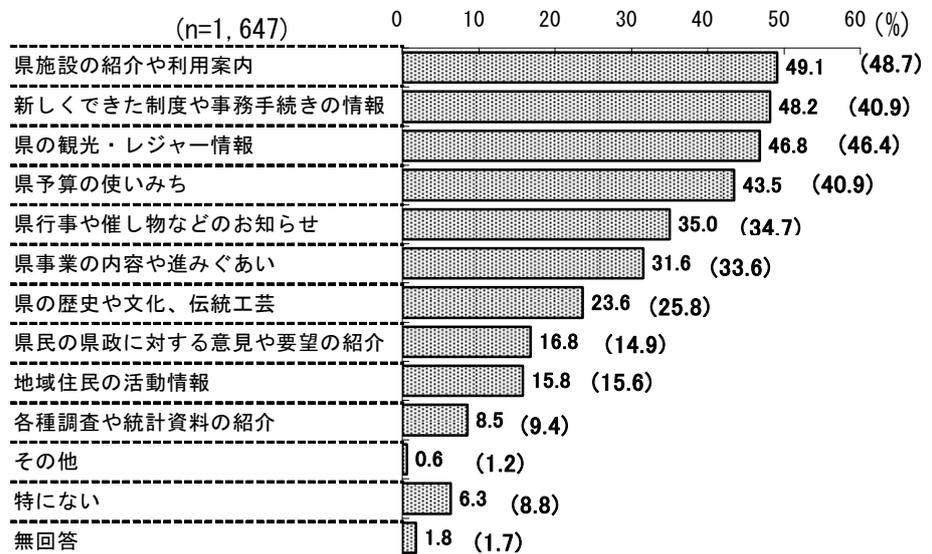


注) () 書きは、平成 21 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(7) 県の知りたい情報

(複数回答: いくつでも)

県の知りたい情報を聞いたところ、「県施設の紹介や利用案内」(49.1%)が約5割と最も高くなっている。以下、「新しくできた制度や事務手続きの情報」(48.2%)も同様に約5割、「県の観光・レジャー情報」(46.8%)が4割台半ばと続いている。

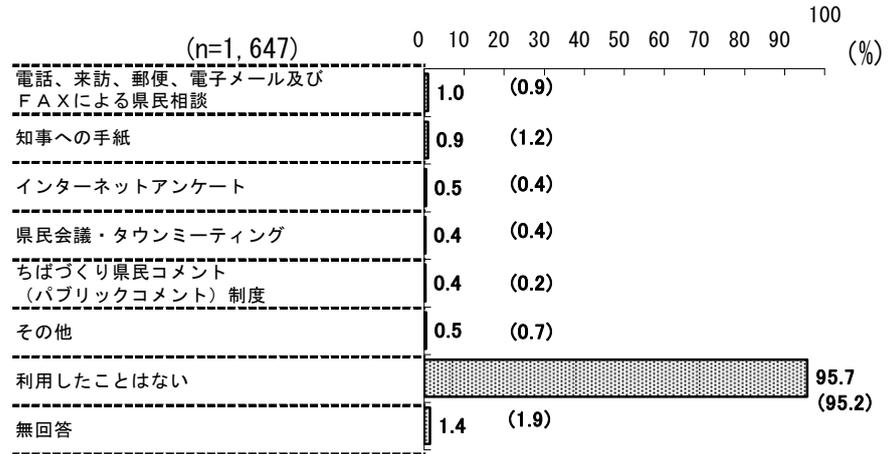


注) () 書きは、平成 21 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(8) 知事への手紙などで意見を述べた経験

(複数回答：いくつでも)

知事への手紙などで意見を述べた経験をいくつでも選んでもらったところ、「利用したことはない」(95.7%)が9割台半ばとなっている。

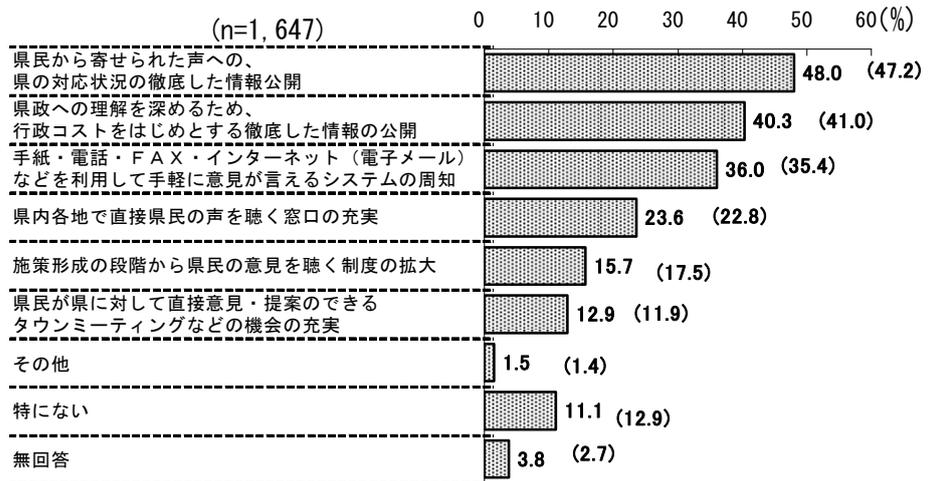


注) () 書きは、平成 21 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(9) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

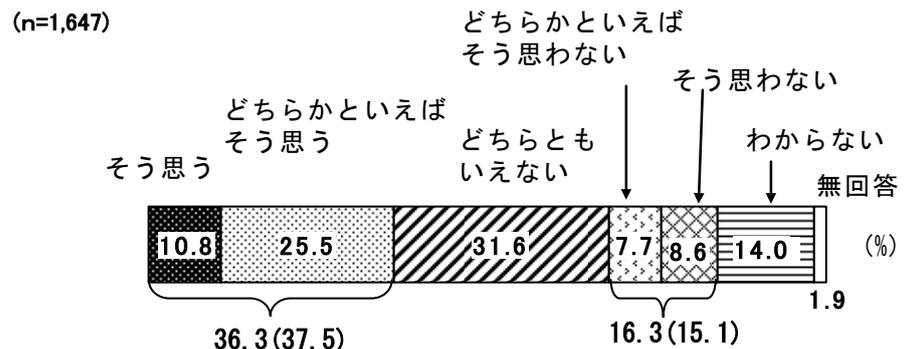
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(48.0%)が約5割となっており、以下、「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(40.3%)、「手紙・電話・FAX・インターネット(電子メール)などを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(36.0%)が続いている。



注) () 書きは、平成 21 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(10) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(10.8%)と「どちらかといえばそう思う」(25.5%)を合わせた『そう思う』(36.3%)は3割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.7%)と「そう思わない」(8.6%)を合わせた『そう思わない』(16.3%)は1割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成 21 年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、451人から延べ570件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○よりよい千葉へ目指してがんばってほしい。道の駅、施設をつくるのではなく、下水道の設置等、残された自然を次の世代へ引き継げるような政策が必要ではないかと思う。財政にしても、子供、孫の世代までを見据えた政策が必要ではと思う。（男性、40代、香取地域）

■県政情報の発信や活動のPRについて

○ホームページのリニューアルも良いと思いますが、「県民だより」をより充実させて興味深いものにして広報に役立てて頂ければと思います（国体の広報以外が目立ちません…）。（男性、40代、葛南地域）

■便利な交通網を整備する

○JRを利用して東京都内へ通勤していますが、千葉方面へのアクセスが悪い。総武快速線は最低でも千葉行き、または佐倉行きにしてくれるとありがたい（津田沼行きを廃止）。県としてJRに働きかけて欲しい。（男性、60～64歳、千葉地域）

■道路を整備する

○高齢者に道路の歩道を歩ける事ができる様に歩道の整備を行ってほしい。（男性、65歳以上、安房地域）

■次代を担う子どもの育成支援を充実する

○大規模なマンションが自宅周辺に何棟も建ち、若夫婦が大変増えました。大型マンションひとつに保育所なり、保育園なり造る条例を作るべきだと思います。（女性、50代、千葉地域）

■高齢者の福祉を充実する

○高齢者にも健康管理のため、人間ドックを受ける場合、補助をお願いしたいです。（女性、65歳以上、千葉地域）

■医療サービス体制を整備する

○1、医療体制の充実を図るために他自治体の良い例を参考に頂き、安心して暮らせる県にして頂きたいと思います。例：こども病院を県に一つ設ける。一般病院と大病院とのカルテの共有等による救急体制の充実。ホーム・ドクター制度の確立など。2、子育て支援の充実。中でも病児、病後児保育には力を入れて頂きたい。（女性、65歳以上、海匝地域）

■雇用の場を広げる

○天下りだけは全体に無くして欲しい。そして若者に雇用の場を考えて明るい町、活気のある町にしてほしい。働く所があればもっといい町になると思う。私も40年商売してきましたが毎年売上もないうに等しい。（女性、60～64歳、千葉地域）

■犯罪防止対策を進める

○以前に一度ひったくりにあった事があります。以来一人で夜帰宅する事が怖い為、会社での残業、飲み会等を断る様になりました。地域の治安を良くする事は、経済の活性化にもつながると思います。防犯対策の強化をお願いします。（女性、30代、葛南地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、237人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- 総論すぎて、答えてても曖昧になってしまう。ポイントを絞り、回数を多くやるべきだ。答えやすくしてください。(男性、65歳以上、葛南地域)
- 質問が多すぎると思う。(男性、40代、葛南地域)
- アンケートがくるまで、あまり県に対して正直考えたことはありませんでした。テレビのニュースが身近だったり、たまに市役所に行ったりと国と市にお世話になっている気がし、県というと、県庁遠いなあ、行ったことないというイメージです。でもアンケートが来てから県に対する考えが変わりました。これからもよろしくお願いします。(女性、30代、北総地域)
- 定期的にこの様な世論調査をする事で、日頃感じている事、また無意識になっている事に意識を持って良いと思います。情報化社会と言われていても、こちらからアクセスしないとなかなか情報は得られないのが現実だと思います。(男性、50代、君津地域)
- この「世論調査」について、公表する予定とありますが詳細の明記がない為、どのように公表されるのでしょうか。3000名の方々に紙を使って調査する以外に方法はないのでしょうか。どれだけの方が返信していただけるのかも分からないのに、現実的に県政の運営に役立っているのですか…。(女性、30代、長生地域)
- 普段、市単位の生活を意識してきているので、県に対する意識の低さを痛感させられた。しかし、現実的に県と直接関わるのは県民税を払ったり、県の施設を利用する以外あまりない。これ（この調査）によって何か良くなるのか？ もっとニュースになるような大胆な先進的な県政をして欲しい。(女性、50代、千葉地域)
- どの程度反映されるものかはわからないが、やるからには一個人の意見として重要視してほしい。又、コストを下げの一案として、県から企業と提携をして、データを集めるなど、コストをかけず、データの量・質・データの収集回数を増やし、もっと住民の意見を聞いて欲しい。おそらく国の国政と国民の考えにズレがあるので、それに気付くのが県の仕事の一つだと思う。(男性、20代、山武地域)
- この度、県へ直接意見を述べられる機会を与えて頂きまして、ありがとうございます。私のように意見を使いたい方はまだまだいると思いますし、インターネットを活用できない方も少なくないので、もっとわかりやすい情報提供や、意見を述べる機会を作って頂きたく、お願い申し上げます。(女性、20代、北総地域)
- 今回の調査で、県民の意見をどこまで反映できるか楽しみにしております。すべての集計を、県民にもわかるようにしてほしいです。ムダにはしてほしくないです。(男性、20代、葛南地域)
- 世論調査をどんどん増やして充実してほしい。(男性、65歳以上、東葛飾地域)
- 県政への要望がもう少し多く選べればと思いました。(女性、60～64歳、葛南地域)
- 丸が3つとかではなく、正直な意見で何個でもつけられるようにしないと、(意味のない)世論調査になると思います。(男性、50代、安房地域)